

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 4 月 1 日

事業所名 きらら守口

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	・利用者の数が多くなるタイミングなどには空間(公園)が分けられる時は分けている・仕切りを使用したり他の部屋や公園に行く児童など空間を分けて過ごすこともあります・パーテーション等でエリアを分けて対応している	
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	1:2や1:3になるように配置している	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	20%	80%	・トイレの手すりが無い・身体障害がある児童が通所される場合トイレなどに手すりが準備出来ていない・重心の児童のご利用が現在のまま、ご利用を受け入れるとなると対応できていない・事業所内に段差がない	できるだけ障壁にならないように工夫していきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	60%	0%	会議する機会を多くとっている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	0%	職員で共有している	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	0%	日を決めて行っている	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40%	20%	・検討が必要 ・職員で共有している	検討していきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	0%	・職員の方は出来ている・パートにも研修をお願いしたい・年に何回か障害特性や虐待研修など行っている・自身から提案もできる環境	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80%	0%	会議を行っている	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	0%	個別に合わせたツールを利用している	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	0%	会議を行っている	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	過去のトレーニングを見ながら行っている	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	0%	・平日は1つ休日は2つ課題を設定している・休日は集団トレーニング(課題、活動)を午前、午後に取り入れたり外出を設定している・トレーニングの後どうだったのか話している	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	ニーズに合わせて組み合わせている	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	机の配置や支援の仕方を話し合っている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	・申し送りノートを活用している・申し送りノートで共有している・うまくいった所や難しかった所を共有し改善している	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・指示書に評価などを記載しPCシステムに入力しているが見返すことが出来ない・指示書に記入し改善している	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	0%	定期的にモニタリングを行っている	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	60%	0%			
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80%	0%	担当している職員が参加するように心がけている	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	送迎時に行っている	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	40%	20%		現在医療的ケアを必要とする児童のご利用がありません。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	40%	40%	必要があれば連携を取ると思われる	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	20%	20%	・小学生までの児童のみ在籍の為対象児童なし・情報提供に努めている	現在小学生までの児童のみ在籍の為対象児童がいません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	0%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	80%		機会を持てるように努めています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	60%	0%	・外部の研修などに参加する機会がある・間接的に参加	引き続き間接的に参加していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・送迎時にパートさんだけではなく社員が行き、困りごとなどを聞く機会が増えたため以前よりは困りごとなどを共有出来る事が増えた・送迎時やHUGを利用し共有を行っている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	40%	・ペアトレではないがご家庭での困りごとや相談ごとに対して案を伝えている・ニーズに合わせて行っている	保護者会から始め、将来的に実施出来るよう努めています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80%	0%	来所時、送迎時HUGで行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・送迎時などに聞いたことなどを社内で話し合い助言などを行うことがある・相談に対し話し合いを行った後伝えていきます	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	60%		次年度は秋頃に開催できるよう企画検討に努めます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	朝の会や申し送りノートなどで職員共有をしている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	80%	0%	活動報告書を毎月HUGに出しています	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	書類や写真の取り扱いには気を付けています	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	60%	20%	視覚支援やSOSカードなどを使っている	環境設定・視覚支援等必要な配慮に努めます。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		実施に向け企画の検討に努めます。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80%	20%		保護者に向けて情報物を作成し、周知に努めます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	40%	60%	・活動として防災センターに行くことはあり、実際の避難通路も確認する機会もあるが定期的に行っていない・避難訓練は未実施ですが防災センターの見学など学びの機会を作っている	次年度は2回の実施に努めます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	60%	0%		次年度は2回の実施に努めます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	60%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	・医師からの指示を保護者経由で対応方法を共有してもらっている・されている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	0%	共有している	